

プリズンブレイク!

ニュージーランドの刑務所でサイの愛が壁を破る



人類が生存と成功という日々の闘いに巻き込まれたままであっても、シュリ サティヤ サイ ババという神我の中に ある惑星上で最も神秘的で神聖で強力な存在は、彼が実際に存在するプラシャーンティ ニラヤムから遠く離れてい ても、近くであっても、何干ものさまざまな方法で、何百万人ものハートの中に神を目覚めさせ続けています。生涯を 通じて全世界的に影響を及ぼした史上初の神の化身、サイ アヴァターの物語は、人間の理解を超えています。し かし、彼が発展させるために来た、私たち一人ひとりに私たち自身の神聖な本質、すべての人は神であり、すべては一つであるということを思い出させるという神聖な任務においては、彼は一瞬たりとも立ち止まりません。

ババは言います。

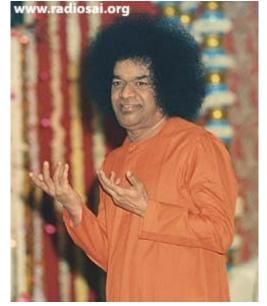
「私の実体に到達することはできません。今日だけでなく、千年かかっても到達できません。たとえ世界中の人々すべてが積極的に調和して千年間熱心に探求したとしても。しかし、私の実体から生じる至福は、全世界のすべての国の手の届くところにあり、あなた方はそれを分かち合うことができます。私の神秘、私の力を理解することは決してできません。」

彼の言葉によれば、この物語は一九四〇年十月二十日にインドの片田舎にあるウラヴァコンダと呼ばれる辺鄙な場所で、小さな村の少年によって始められた愛の革命のもう一つの小さなエピソードであり、アメリカのビジネス社会からニュージーランドの刑務所まで、数百万の人々の足をさらう大波、世界的な愛の津波となったのです!

今日の特集は、バガヴァン ババの実体という至福を経験している霊性求道者の最も予想もしなかった物語で、神の実感認識は、教会や寺院、モスク、シナゴーグ(ユダヤ教徒の礼拝堂)、ヒマラヤの洞窟といった場所に限られるものではないということを証明しています。

ビルとアーサーは二人の囚人です。彼らの監房は神聖で強い霊性修行の場です。シュリ サティヤ サイ ババという人物の姿に化身した宇宙意識は、まさにそこ、刑務所の中で自らを明らかにしました。ピーター フィリップス氏は刑務所のカウンセラーで、この二人の受刑者にアヴァターのメッセージを伝えるための神の道具として選ばれました。

おそらくは人間に合理性という限界があるがゆえに驚かされるこの物



語の顛末は、巻き込まれた三人の男性全員の口を通じてあなたに語られます。それは、三人それぞれの個人的体験をあなたに伝えるために、三名の声で織りなされており、バーガヴァタムや聖書やクルアーンで明らかにされた神の栄光の物語が、現在のアヴァターの経歴においては日常の出来事であることを証明しています。心を動かす神の力を記録したそれぞれの例には、帰依者によって愛情深くスワミと呼ばれている宇宙の主の栄光を知らない何百万人もの人々がいるのです。一九九三年十月二四日に行われた画期的な講話の中で、スワミは言いました。

「まもなく世界のすべての地域にサイの栄光が広がります。それは千倍に増えるでしょう。その理由は、サイの使命が本質的に善であるからです。どんな汚れも全くありません。最も純粋な動機から、すべての行為が行われます。言われていることはすべて真理に基づいています。すべての活動は、部外者に頼らずに実施されています。したがって、恐れが入り込む余地はありません。収穫された後、穀物の束は選別され、風がすべての籾殻を吹き飛ばして、穀物だけを残します。このプロセスの間中、真の帰依者は揺らぎません。揺れ動く人形は漂って離れていくでしょう。これは選別のプロセスです。」

私の名前はピーター フィリップスです。これはニュージーランドの刑務所庁へと至るまでの私の道程の物語です。私は大学で心理学を学び、この科目で大学院の学位を取得しました。私は、実務経験を積むために、一九六一年に保護観察サービスに加わり、その後一九六二年に誘われて刑務所の精神分析医となりました。私は前職は楽しみましたが、後者は大嫌いでした。刑務所奉仕には、囚人たちの社会復帰、矯正、変容という壮大な公的目標がありましたが、実際には、否定性、破壊、怒り、悪意の温床でした。一九六八年頃にそこから去った私は、打ちひしがれて幻滅していました。



www.radiosai.org

私が最初にスワミのことを聞いたのは、一九七五 年頃、アメリカ人のヒッピーからです。しかし、かつ て LSD や他の向精神を使っていた男性から聞い た話だったので、自分は肉体を持った神に出会 ったという彼の主張には懐疑的でした。しかし、彼 は私に、光明瞑想という一種の瞑想法を紹介しま

数年間、私は、ある程度の冷笑と絶望を持ちなが ら、ニュージーランドで刑務所政策と運用を担当 しました。私は政治家が公の場で述べる仰々しい 美辞麗句は、真実から遠いことを知りました。

した。ご存じのとおり、これが非常に有益で助けに なることを、のちに私は理解しました。その瞑想は、

フィリスクリスタルさんが教えているものと同じです。

私は何年にもわたってキリスト教の教会内で活発に活動し、一九八九年には救世軍での仕事を得ました。一九九○年、 私は二人のアメリカ人が提供する被害者支援のためのコースに参加しました。コースには、大量殺人カウンセリングに関 する半日ワークショップが含まれていましたコースのメンバーは、これらのことはニュージーランドでは起こらないと抗議しま したが、トレーナーは、これはトレーニングの一部であると主張しました。

十日後、ニュージーランド南島のダニーデン近くにある小さな集落アラモアナで、大量殺人がありました。私は一本の電話 を受けました。それはすべてを放り出して、生き残った人々と地域社会と共に働く三人編成の被害者支援チーム「に参加 する準備ができているかどうかを尋ねるものでした。私はその仕事について非常に心配していましたが、スワミの恩寵によ り、そのような出来事に備えて私たちは訓練されていました。これは偶然ではないと私は確信しています。現地へ飛ぶ飛 行機の中で、私は霊的な保護とサポートの一形式としてよく使われる光明瞑想を始めました。そして、私は自分自身の力 ではその仕事をすることができないことを知っていたので、神に助けを求めました。すぐに、私は愛と英知という強力な存 在を感じ、私たちの周りを流れている強いエネルギーの流れを感じました。このエネルギーは、私たちが働いていたすべ ての時間の間中、私たちと共にありました。チームの全員がそのエネルギーを感じ、同じ体験をしました。その地で過ごし た短い期間の間に、私たちは目の前で起こった多くの癒しの奇跡を見ました。

その催しが終わって神に感謝している時、「私はあなたが知っているよりも大きいのです。私を探し求め、私を見つけなさ い」という内なる声が聞こえました。私は、自分が知らなかったイエスについて、何かあるのかと調べ始めました。私は、「ニ

ューエイジ」タイプの本を扱う本屋で調査を始めました。数分後に は、書棚から私の手の中に、文字通り一冊の本が飛び込んできま した。

それは、ジャネットとリチャードボックが書いた「イエスミステリー」 という本でした。この本はまずイエスの生涯について述べ、それか らスワミについて記してありました。

私は自分が探していたものを見つけたと知りました。しかし、科学 的な心の傾向から、私はまず、スワミがご自分で語っている存在で はないことを証明しようとしましたが、私は彼の中に何の誤りも見 つけることができませんでした。その後、私はプラシャーンティニ ラヤムに何回か旅行しました。

サイの霊性とキリスト教の信仰を調和させる

スワミとのインタビューの中で、私は彼に質問しました。「あなたの メッセージを、キリスト教徒にどのように伝えたらいいでしょう か?」スワミは答えました。「サイババを教えるのではなく、イエ ス キリストを教えなさい。しかし、イエスが普遍的な愛を教えたこ とを教えなさい。」スワミは愛の性質に関する素晴らしいミニ講話



プリズンブレイク!ニュージーランドの刑務所でサイの愛が壁を破る

を行い、「神に対する愛のみがバクティ、信愛です」と締めくくりました。

「イエスは人類の再生と幸福のために、己の命を犠牲にしました。今日、異なる信仰間のいわゆる「違い」を誇張して、自分たちの利己的な目的のために、これらの「違い」を悪用する人々がいます。彼らは、霊的な巨人であったそれらの宗教の創設者に、悪評をもたらしています。自分に付き従う人々に、他の信仰に従う人々や他の宗教を憎むことを求めた預言者や救い主はいません。すべての宗教は、神は一つであり、すべての存在の中に神が棲んでいると宣言しています。イエスもまた、すべての存在の中に一つの御霊が棲んでいるという真理を宣言しました。」 ——サティヤ サイ ババ

私は教会で牧師になり、その他の指導的立場を引き受け、スワミが私に指示した方法でイエスについて教えました。私は神学とキリスト教史のディプロマコースを始めました。カジノやギャンブル施設の建設に反対する仕事をしたために、私は自分の教区を超えて広く知られるようになりました。私は週末に行われるキリスト教の生き方に関する短い講座のディレクターを務め、チームメンバーの妻であり、刑務所庁に関わっているオードリームーンライトと話をしました。彼女は私に、近隣の刑務所にフェイスベイスドコニット(宗教別のグループ)が設けられ、メンター(助言者)やグループリーダーを探していると語りました。刑務所での私の以前の経験の後だけに、今回は、もっと肯定的な経験になるであろうという期待で、私はワクワクしました。そこで、私は(メンターとグループリーダーの)両方に応募し、二〇〇三年に四名のグループファシリテーターの一人に任命され、ニュージーランドのプリズンフェローシップと契約してそのチームに加わりました。

声は多いが、歌は一つ:宗教は多いが、神は一つ

チームのリーダーやその他のファシリテーターたちは、「神への唯一の道はイエス キリストを通してである」と信じている、 どちらかというと原理主義的なグループのキリスト教徒でした。私は、声高には話しませんが、もっと普遍的なことを教えま した。

別々の時期に、イスラム教徒や仏教徒がグループに加わることもありました。本来なら私たちは彼らをキリスト教徒に改宗させるべきなのですが、私は仏教徒に対してはイエスと仏の教えがどのように同じであるかを指摘することを好み、イスラム教徒がいる時には「アッラー ホ アクバル」(神は偉大なり)という言葉でセッションを開始しました。バガヴァン ババが、道はたくさんあるが目的地は一つ、と私たちに教えたように、私の目的は常に、彼らが神に期待する姿形が何であろうとも、その神に向かって一歩踏み出すのを助けることでした。

私たちのセッションは、聖書に基づくことを目的としており、何人かの囚人は、私が発言するすべての声明に聖書の引用があることを期待します。他の囚人たちは、聖書の一般的な枠組みの枠を越えて質問してきます。それがどんな質問であっても、霊的なものであれば、私は喜んでそれに答えました。

刑務所の中に満ちる神聖なエネルギー

アラモアナで、私は、自分を通って他の人に流れる大きなエネルギーの流れとして、スワミを経験しました。刑務所の中では、時折、同じ体験をすることがあります。

時には、エネルギーが非常に強く見えるので、私は自分が電気の幹線につながっていると感じます。これが起こるのは、 悲嘆時のサポートや、罪の許しと同じくらいに基本的な何かを彼らが必要としている時であると、私は気付いています。そ れは私のコントロールできる範囲を超えていますが、その人を助けようとする努力の中で、私がスワミに対して自分自身を 開いた時に起こるのです。

神の存在が非常に強く広範囲に見える時があります。これらの時期には、非常に多くの人が霊的エネルギーを自分のエゴに注ぎ、自分自身を「グループの中で最高のキリスト教徒」と見なすため、紛争と困難の期間となることがよくあります。その後、神のために話すのは誰なのかについて、喧嘩が起こることもあります。エゴは、刑務所内の大きな敵であり、他の場所でも同じです。

現在私たちは、変容や大きな祝福を経験しているたくさんの人々と共に、グループ内に非常に強い霊的エネルギーがある時期を経ているところです。私は、他の人々に嫉妬心を起こさせないように、何が起こったかについては沈黙を守るよう、人々に勧めています。私たちが奇跡として認識するかもしれない出来事の多くは、注目されない結果に終わります。

私は公然とスワミについて話すことはしませんが、常に聖書の文言と彼のメッセージを組み合わせて提示しています。これは簡単にできます。

ガーヤトリー・マントラ、普遍的な祈り

キリスト教の正統性を超えた霊的な性質の質問を、私に個人的に尋ねる人がいます。彼らは過去の人生やカルマに従っているのかもしれません。その答えとして、私は名前を出さずに、スワミを含めたさまざまな情報源から資料を提供します。その質問が何度も繰り返され、心からのものであるのなら、私はその質問に答えている御講話やスワミに関する本を彼らに与えるかもしれません。これが、真理が目覚める瞬間です!

ガーヤトリー・マントラは、人類最古の聖典であるヴェーダの中で大切にされており、歪みなく真理が映し出されるような明瞭な知性を求める、普遍的な祈りです。(サティヤ サイ スピークス 十巻百九頁)

ガーヤトリー・マントラは、あらゆる世紀においてあらゆる信仰を持つあらゆる国々の男女が、切望を込めて唱えることができる祈りです。このマントラを繰り返し唱えると知性が発達します。(サティヤ サイ スピークス 五巻五十八頁)

私たちがアーサーと呼んでいる男性、受刑者がいます。彼は、スワミを参考にしなければ答えられない、非常に鋭い質問をいくつか私に尋ねました。私は彼にいくらかの資料を与え始め、彼はさらにたくさんの質問をし続けました。彼は瞑想するのが困難であると私に語ったので、私は光明瞑想に関する英国の本を彼に与えました。私はガーヤトリーマントラに関する情報と、スワミがガーヤトリーマントラを百八回唱えているCDを使って、そのフォローアップをしました。彼は毎朝スワミと一緒にガーヤトリーマントラを唱え始めました。それからすぐに、スワミは彼の監房を何回も訪れ始めました。自分の意志で彼は菜食主義者になり、食事を変えるために刑務所の管理スタッフとバトルを繰り広げました。

バガヴァン・ババとの神聖な出会いにより、突然、内的変容が起こったのだと説明しながら、アーサーは語ります。

「私は、帰依者のピーター フィリップスから、初めてサティヤ サイ ババのことを紹介されました。彼は、私が麻薬犯罪で服役していたニュージーランド刑務所の中の宗教別グループで、キリスト教徒グループのプログラムのファシリテーターをしていました。

私はピーターと出会った時までに、自分の存在の意味と理由を見つけようと決めていました。私は彼に、自分が持っ



ていた霊的な質問のいくつかについて、情報を求めました。彼は、スワミによる資料またはスワミに関する資料のいずれかを読むようにと、私にプレゼントしてくれました。

私がスワミの教えと資料を学び始めた時、私はその普遍的な真理に心打たれました。このことは本当に私の意欲を高め、私はスワミについてもっと質問したいという気持ちになりました。ピーターはいつも私の質問に答えてくれたので、私はとても恵まれていました。私は彼のスワミとの体験について話しながら、彼と共に長い時間を過ごしました。これが私にとってのすべての始まりでした。

囚人なので、私にはスワミの教えを勉強し、瞑想 し、練習する時間がたくさんあります。私の生き 方を変容させ、神への愛を育むための助けを求 めて、私は神に祈りました。スワミは私の祈りに 答え、徹底的に私の人生を変えました。私は彼 の愛に深く感謝しています。振り返ってみると、神 はいつもそこにいて、いつも私を守ってくれたこと に気付きました。」 私はアーサーの質問に答えるために、時々サイ文献を持参していました。ある日、私は彼のためにサナータナ サーラティ 誌から何ページかをコピーしていました。私は誤った方法でコピー機の中に挿入してしまい、最初のページをダメにしてしまいました。それは講話からの抜粋と共に、スワミのカラー写真が載っていました。私はスワミの神聖な画像を台無しにすることは絶対にしません。それで、それをどうしようかと思いました。それはアーサーに渡そうとひらめきました。その日、私が刑務所に行くと、アーサーが私に言いました。「私はスワミに、スワミの写真をくださいと言いなさい、と言われました。」私はアーサーに「スワミの写真を持ってきているよ」と話しました。彼は圧倒されました。それから、彼は額縁を作ってその写真と引用文を入れ、自分の監房にそれを飾りました。他の何人かの囚人や刑務官たちは、写真と神聖な引用文に気が付き、それについてアーサーに尋ねます。何人かのスタッフや彼の囚人仲間たちは、その写真に心魅かれ、その英知の言葉について深く考えます。

クリスマスに父なる神とその聖なる息子を体験する



究極の犠牲

去年のクリスマスの前に、アーサーは三日間の断食を行い、空腹でした。彼はまた、彼のグループにいる六十人の囚人全員にプレゼントとしてインスタントラーメンを買うのに十分なお金が欲しいと悩んでいましたが、資金は十分ではありませんでした。

なんとかして五十四袋のインスタントラーメンを手に入れたアーサーは、誰にあげないかを決めようとしていました。断食二日目の十二月二十三日、彼が祈っていると、彼の監房は明るい光で満たされました。目を開けると、白い服を着たスワミが出血している手のひらを上げていました。

スワミはアーサーに「私とイエス キリストは同じです」と語りました。 彼は「イエスが十字架に磔になった時は、身体意識を超越していて 痛みを感じませんでした」と話しました。そしてアーサーに「断食を 完遂しなさい。あなたはもはや飢えを感じることはないでしょう」と告 げたのです。

アーサーのもう一つの心配事について、スワミは「全員に配りなさい。 全員に行き渡るのに十分な量があるでしょう」と保証しました。アー

サーは、ラーメンを配るために、彼の友人―私たちがビルと呼んでいるもう一人の囚人―の助けを借りることにしました。ビルは、全員に配るには量が足りないことを指摘しました。

しかし、プレゼントを配り終えたアーサーとビルが再集合すると、グループ内の全員が一袋ずつインスタントラーメンを受け取った上で、さらにまだ十一袋が残っていることが判明し、驚愕しました!

私は当事者である刑務所の受刑者たち、すなわちアーサーとビルの両名に、その体験についての自分の考えを話すよう求めました。

アーサーは語ります。

去年(二〇〇七年)十一月、ある早朝のことです。私は監房の中でガーヤトリーを唱えていました。監房のカギを開けるために刑務官がやって来る時間までには、まだ三十分ほどありました。私は、刑務官がやって来る前にガーヤトリージャパが終えられるよう助けてくださいと、スワミに祈りました。時刻は午前七時五十五分でした。

私がマントラを終えたのは、扉が開錠される直前で、まだ午前七時十五分でした。私は何が起こっているのか信じられませんでした。私は時間が静止していたかのように感じました。

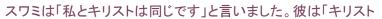
この経験は、スワミが私の前に現れた以前の出来事と相まって、スワミへの愛と献身という深い感覚を私に残しました。

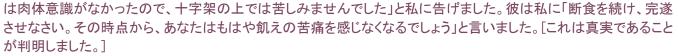
私が自分のサーダナを続けていると、スワミが何度か私の監房に来て、私と話をしました。自分の人生において神

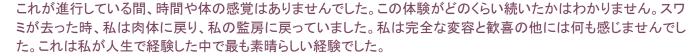
の存在に目覚めてからずっと、それは私がかつて所属していた 家に戻るようなものでした。

クリスマスの前に、イエス・キリストという人間とスワミについて、 私が抱えていたいくつかの問題を解決するのを助けるために、 私は三日間の断食を行うことを決めました。私の面倒はスワミ が見てくれることを知っていたので、私は喜んで他の人々に自 分の食べ物を与えました。断食の二日目、二〇〇七年十二月 二十三日、私の身体は強い空腹を感じ、飢えの苦痛もありまし た。

私は監房の中で膝をついてスワミに祈りました。すると突然、一つの力強い存在が私と共にいることを感じたのです。私は祈りを止めて目を開けました。すると驚いたことに、部屋は明るい白と青の光で照らされ、監房は消失したかのように見えました。私と、白い服を着て美しく微笑んでいるスワミ以外には、何も存在していませんでした。この瞬間、私は自分自身という感覚を失いました。スワミは、手のひらから血が流れている両手を掲げました。スワミは私に話しかけていましたが、何の音も発していませんでした。しかし私にはスワミが何と言っているか理解できたのです。







二〇〇七年のクリスマスの前に、私は、クリスマスプレゼントとしてインスタントラーメンを一袋ずつ、同じグループ内の兄弟たちに贈ろうと決意しました。私は刑務所内での賃金を使ってラーメンを購入しました。私が懸念していたことは、貧弱な刑務所収入から多大な犠牲を払いながら貯蓄したにもかかわらず、グループ内の全員用に購入できるだけの十分なお金がなかったということでした。

私は自分と、最も近い友人たちにはプレゼントを贈らないことにしようと決めました。クリスマスの日の朝、私は友人のビルを呼んで、皆にインスタントラーメンを配るのを手伝ってほしいと頼みました。私たちはスワミに祈り「贈り物を祝福してください、私たちはそれを配布するために使われる道具にすぎません」と言いました。私はビルにインスタントラーメンの入った箱を一つ渡して、「グループの囚人たちに一人一袋ずつ配布してください。ただし、全員に十分な量がないので、あなたの分はありません」と言いました。

私は残りのラーメンを配りました。ビルと私は驚いて戻りました。私たちは指定された人々全員に食べ物を配りました。そして全員分が足りただけでなく、さらに十一袋も残ったのです。

私たちはそれを説明できませんでした。私は、スワミが食べ物を増やしたのだと言うことをすぐに理解しました。私はスワミの愛、全知、全能という例を目の当たりにし、大喜びしました。

私と共に食べ物を配布してくれたビルは、スワミが食べ物を増やしてくれたと悟りました。この経験によって彼は変容し、帰依者となりました。

私はまた、神が増やした食べ物を食べた何人かの人格が劇的に変容したことにも気付きました。

「ガーヤトリー・マントラは、夜を含め、いつでもどこでも繰り返し唱えることができます。ガーヤトリー・マントラは神性と同義です。それゆえ、このマントラに対する愛、信仰、尊敬、謙虚さをもって近付かなければなりません。」――シュリ サティヤ サイ ババ



同じ施設にいるもう一人の受刑者であるビルも、スワミの帰依者となりました。彼もまた毎朝ガーヤトリーマントラを百八回 唱えています。その後、もう一人の男性が私に、自分の監房にキリストが現れたと告げ、スワミに関する資料を求めてきまし た。ビルは、ニュージーランドの刑務所の中で起こっている神聖な現象について、自分がどう考えているかを説明していま す。

ビルは言います。

「私は、奇跡は聖書のものであり、私たちの時代には決して現れないと思って育ちました。私はサイ ババと呼ぶ存 在と、彼が自分の帰依者のために行う奇跡について、知るようになりました。私が初めてスワミについて聞いた時、 私は彼が自分で語ったとおりの人であることを知りました。しかし、ほとんどの人と同じように、私は自分自身が取り 付けた精神的障壁を突破しなければならず、そのような奇跡を行うことができるのは、キリストだけであると信じてい ました。スワミとキリストは異なった肉体で顕現する同一の存在であること、そして神には制限がないことが理解でき るように、スワミは私を助けてくれました。私は、スワミについて、スワミの御教えについて、そしてスワミが行った奇 蹟について読めば読むほど、神は私たちが『神』であると想像するものに制限されるものではない、ということを本当 に信じるようになりました。

私たちは神にとって不可能なことは何もないと信じていますが、神が自分にはできると言ったことをすべてを行える ということはなかなか信じません。私たちは毎日奇跡が起こることを祈っていますが、インドの『男性』が同じ奇跡を 起こし始めると、私たちはその奇跡をトリックだとか目の錯覚だとか言って即座に却下します。神が本当に何者であ るかについて、私たちが無知であることが錯覚なのです。私のキリストとの旅路が私に示したことは、悟りを得た人 間――キリスト意識や仏性に到達し、神に近付いた人間――にとって、奇跡は自然な状態であるということです。こ の段階に到達すると、被造者〔人間〕にとって奇跡は自然な状態となります。そうすると、奇跡とは、神の化身にとっ ては子供の遊戯ということになりませんか?」

食べ物が増えた場面のビルの説明に戻ります。ビルは振り返りながら、次のように録音しました。

「私は現在、キリスト教徒グループの囚人です。去年のクリスマスに、スワミが行った奇蹟を目の当たりにしました。 この祝祭の時に、Bro.アーサーは、兄弟たちへの善意として配るために、刑務所内の食堂でインスタントラーメンを 購入しました。

購入したラーメンは全員に行き渡るだけの十分な量ではありませんでした。この時、Bro.アーサーは、二〇〇七年ク リスマスの三日前から断食をしていました。そして瞑想中にスワミが彼の前に現れたのです。

[グループ内の受刑者全員に]ラーメンを配りなさい、[全 員に行き渡るだけの]十分な量があるだろう、というのが スワミからの指示でした。Bro.アーサーは、クリスマス当 日にインスタントラーメンを配るのを手伝ってくれないか と、私に頼みました。そして確かに、全員に配って、少し 残ったのです。私たち二人は、この一連の出来事と語ら れた真実について話し合いました。

私たちのどちらも驚きはしませんでした。なぜなら、神の 意志に全託し、変わることのない愛をハートに抱きなが ら主や隣人たちのために働くのであれば、そのような 『不自然な』ことが起こるからです。私はこの奇跡がスワ ミの恩寵によって起こったことを悟りました。心の中で、 私はスワミの祝福に感謝しました。スワミに対する私の 愛はますます強くなりました。

私にとっては、スワミは二千年前のキリスト(メシア)、イ エスという人物の姿で、これらの奇蹟を顕現させたので す。そして今回は、シュリ サティヤ サイ ババという人 物の姿で同じ奇跡を顕現させました。」

現在、刑務所カウンセラーとしての私の仕事はまだまだ発展 中であり、最近はより急速なペースで進化しています。今まで

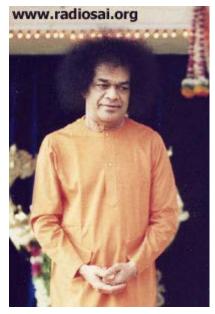


に五人の男性がスワミについての話を聞き、スワミが自分で主張するとおりの存在であることを全員が受け入れていますが、スワミの御教えを実践するために自分は呼ばれたのだと感じているのは全員ではありません。献身的な帰依者と言えるのは、五人のうち二人だけです。彼らを育てなくてはなりません。そしてスワミは、人間の姿で現れることによって、あるいは「ピーターに頼みなさい」と言うことによって、彼らが必要とするものを確実に得られるようにしているのです。

私は注意深くあらねばなりません。包括的で、イエスの教えのすべてが正しいと立証する、スワミの普遍的メッセージへの理解は限られているからです。私の仲間のファシリテーターたちは、私が非キリスト教の宗教または哲学を助長していると誤って結論付けるかもしれません。興味深いことに、多くの管理スタッフと囚人たちは、普遍的真理を喜んで受け入れます。私たちが教えることになっている「イエスが神への唯一の道」というより狭い方針よりもわかりやすいからです。

スワミがこの仕事を豊かに祝福し、刑務所の中や出所後にスワミのための素晴らしいアンバサダー(大使)となれるよう何人かの準備を整えつつあることを、私は確信しています。

強い切望一霊的成功の鍵



興味深いことに、このプロジェクトの成功の大部分は、ほとんどの場合、囚人たちが大きな精神的飢餓を抱いていることに依ります。囚人たちの多くは、罪悪感や後悔という痛切な思いに苦しんでいます。再び刑務所に戻ることなく、より良い父親や夫になるために、彼らは心から自分自身を変えたいと思っています。地域コミュニティで行う教区の仕事では、自分は誰か、何者かということに関する自分自身への不満や飢餓はさほどないということに、私は気が付きました。人々は飢えれば食べさせてくれと頼むだけです。地元コミュニティの中では、このレベルの精神的飢餓はありません。

グループを通じたスワミの恩寵の増大は、本当に私を驚かせます。熱心にサーダナ に取り組み、スワミの御教えを応用し、真理に植えているこれらの青年たちを前にす れば、私たちのほとんどは恥ずかしく思うでしょう。彼らは自分たちにふさわしい恩寵 を得ています。

グループ内の残りの人々は、私たちが話し合いを重ねて来た数人は別として、並外れて優雅です。数ヶ月前、スタッフ不足のため施錠時間を増やさなければならなくなった時、キリスト教徒グループの男性たちは喜び、感謝の礼拝を行いました。他の宗教グループは、さまざまな段階の怒りを経験しました。彼らは現在、一日に十五時間、

監房の中に閉じ込められています。

刑務所内には二十以上のグループがありますが、現在はその他のグループにおいても暴力レベルが減少していると私は聞いています。

私は長い間、グループの中で霊的革命を始めることができるという感覚を持っていました。後に、それは私たちの犯罪人口の大部分を形成するサブカルチャーへ伝播するでしょう。社会的ピラミッドの最下層から革命が始まれば、それは国の残りの部分にまで広がるはずです。私たちはその始まりを目の当たりにしていると思います。スワミはかつて、ニュージーランドのグループに、「ニューサイランド」が不安定な世界に安定という模範を示すだろうと語りました。

変化という神の道具になることへの感謝

スワミの使命のための道具になることは大きな名誉です。私は、刑務所にいる人々への奉仕をすべきかどうかも検討しなく てはならないと、サイの帰依者たちに勧めています。

刑務所内にいる私の兄弟たち、仲間である霊性志願者たちと私の絆という喜びを説明するのに、アーサーが自分の人生 にスワミがいることについて語ったことを引用するよりも、良い方法があるでしょうか?

アーサーは言います。

「私の人生においてスワミが何をしているのかを描写するのにふさわしい言葉が見つかりません。私は家にたどり着きました。スワミの愛が私の家庭であり、そこは私が永遠に所属する場所です。私たちの主、サティヤ サイ ババの神の光が、彼の神聖な愛と力について書かれたこの文章を読むすべての人のハートを照らしてくれますように。」

最後に、聖書の短い一節をご紹介します。

その時、王は右にいる人々に言うであろう。『私の父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国(みくに)を受けつぎなさい。あなたがたは、私が空腹の時に食べさせ、喉が乾いていた時に飲ませ、旅人であった時に宿を貸し、裸であった時に着せ、病気の時に見舞い、獄にいた時に尋ねてくれたからである。』その時、正しい者たちは答えて言うであろう。『主よ、いつ、私たちは、あなたが空腹であるのを見て食物を恵み、乾いているのを見て飲ませましたか? いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか? また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたのところに行きましたか?』すると、王は答えて言うであろう。『あなたがたによく言っておく。私の兄弟であるこれらの最も小さい者の一人に対して行ったことは、すなわち、私に対して行ったのである。』(マタイによる福音書二十五章三十四~四十四節)

「人への奉仕は神への奉仕です」―サティヤ サイ ババ

ラジオ サイ ジャーナル 第六巻第三号 二〇〇八年三月号より

http://media.radiosai.org/journals/Vol 06/01MAR08/04-newzealand.htm#victim

[□] 被害者支援チーム: 私は一九九○年にニュージーランドを訪れていた二人のアメリカ人が主催する、犠牲者支援コースに参加しました。コースには大量殺人に関する半日講座が含まれていました。コースの参加者たちは、これらはニュージーランドでは起こらないと抗議しましたが、トレーナーはこれもトレーニングの一環であると主張しました。ニュージーランドで最後の大量殺戮が起こったのは第二次世界大戦中のことでした。私たちがコースを修了してから十日後、ダニーデン近郊のアラモアナで、一人の男が隣人と口論になり、家族を撃った後、短時間の間に銃を乱射して、四人の子供を含めた十三人を死亡させました。私は被害者タスクフォースを構成する三人チームの一員として招かれました。私たちの仕事は、地域社会で生き残った人々に対処し、被害者たちにカウンセリングと支援を提供することでした。私たちはすぐに現地へ向かい、二日半だけ滞在しました。私たちが使用したモデルの一部は、地域コミュニティとは結びつかずに、地域コミュニティが問題そのものを扱うことを支援するサポートシステムを構築するよう述べています。殺人犯、デヴィッドグレイは、私たちがダニーデン空港に到着した時に、警察に射殺されました。地域コミュニティでは、PTSD(心的外傷後ストレス障害)のような精神的健康問題が発症しなかったので、私たちの仕事は非常にうまく行きました。これは、非常に初期の段階で被害者タスクフォースが介入したことに起因すると考えられます。

² プリズン フェローシップ:これはチャールズ コルソンによって始められた国際的運動です。彼は、一九七○年代初頭に起こったウォーターゲート事件で、リチャード ニクソンのスタッフの一人でした。彼は一九七三年にキリスト教徒となり、大統領を批判から守るためにあらゆる手段を正当化するニクソン政権の風土を不快に感じるようになりました。CIA(中央情報局)のメンバーを含む人びとが、たくさんの違法行為を行いました。ウォーターゲートへの侵入者たちは、民主党の選挙戦略を調べただけでなく、民主党を有罪にする証拠も見つけようとしました。コルソンは自分の原理原則に忠実であろうと決意し、一九七四年にウォーターゲート関連の罪状を認めました。彼は懲役一~三年の有罪判決を受け、アラバマ州のマックスウェル刑務所で七カ月間服役しました。彼は刑務所内の状況にひどくショックを受け、出所するとプリズンフェローシップを結成しました。これは、囚人、元囚人、犯罪被害者、およびその家族に対する世界最大の支援奉仕活動(アウトリーチ)となりました。現在は世界百か国以上に四万人以上のワーカーとボランティアがいます。それはキリスト教の原理原則に基づいています。